

第19回若年者ものづくり競技大会「自動車整備職種」への挑戦

北海道苫小牧工業高等学校 電子機械科 主幹教諭 黒木 允晴

1 はじめに

本校は、令和5年に創立100周年を迎えた歴史と伝統ある学校である。設置学科は、全日制課程に「土木科」「建築科」「電子機械科」「電気科」「環境化学科」「情報技術科」の6学科、定時制課程に北海道内で唯一の「工業技術科」が設置されている。工業の主要な分野を学ぶことができる学科が揃っており、様々な産業のニーズに応えることができる北海道内屈指の工業高校である。

2 選手について

本生徒は、建具や家具の製作所を営む父の影響で、幼少からものづくりに興味を持ち、小学生の頃には自動車に興味を持ち始め、将来は自動車整備士になると心に決め、本校に入学した。入学後は、同じ志を持つ仲間とともに練習を重ね、2学年時に若年者ものづくりコンテストの出場権を獲得した。本生徒は、遠方から通学しているため、練習時間が限られていたが、全国大会上位入賞を目標に、これまで以上に意欲的に練習に取り組むことを決意した。しかし、学校には十分な設備がないため、地域の自動車ディーラーや専門学校の設備を借りたり、現職の整備士からアドバイスをいただいたりするなど工夫しながら練習を重ねた。

大会当日、慣れた手つきで作業を進めていく選手が多かったが、本生徒は周囲の雰囲気流されることなく、自分のペースで課題に取り組むことができた。しかし、大会では練習で使ったことのない工具を扱ったり、初めて見る課題にその場で対応する必要があった。そのため、自信を持って終えられた課題は少なく、すべての課題をやりきれなかったことには悔いが残った。それでも、持てる力を出し切ったことで、大会後には達成感に満ちた表情をしていた。後日、結果が公表され、敢闘賞受賞を知ったときには、驚きと嬉しさ溢れ

る笑顔が印象的であった。現職の整備士から、現象には必ず原因があり、理論をもとに探求する力が必要であることを練習で指導いただいたことや、幼少期からのものづくりをとおして培った想像力や手先の器用さを生かした結果が大舞台で認められたことは、本生徒の今後の人生において、大きな財産になると確信している。



大会の様子

3 生徒の感想

自動車整備士は、単に車を整備、修理するだけでなく、お客様が安全、安心に車を運転することができる状態を保つための重要な役割を担っています。私たちの生活に欠かせない存在である車を、整備士の技術で安全かつ快適に保つことは、交通事故を防ぐためにも非常に重要です。今回の大会出場や競技練習を通じて、自動車の状態を把握し、必要な整備を行うことでお客様に安心を提供することの大切さを学ぶことができました。また、自動車整備士の責任とやりがいを一層強く感じるようになりました。

私は将来、多くのお客様に安心と安全を提供することができる自動車整備士として、社会に貢献していきたいと考えています。そのために、今回の大会出場をとおして身に付けた知識や技能を、さらに高めていけるように日々努力し、成長を続けていきたいです。そして、誰からも信頼される自動車整備士になるという夢を叶えたいです。